

## 物価と雇用 —— AS 曲線とその応用

経済を取り巻く諸条件が大きく変動しなければ、時間が経つにつれて失業率は次第に自然失業率に近づいて行く。

### I. 物価上昇率

#### A. 物価上昇率を定める主要な要因

1. 雇用水準（または失業率）
2. 予想物価上昇率 M・フリードマン（1968）, E・S・フェルプス（1969）

#### B. 雇用水準（または失業率）と物価上昇率の関係の説明

1. 生産物価格の上昇率からの説明 I・フィッシャー（1926）
  - a. 生産物価格の上昇率が高いほど利潤は大きい。
  - b. 利潤が大きいほど生産は増え雇用も増える。
2. 貨幣賃金率の上昇率からの説明 A・W・フィリップス（1958）
  - a. 雇用水準が高く失業率が低いほど貨幣賃金率の上昇率が高い。
  - b. 貨幣賃金率の上昇率が高いほど物価上昇率が高い。

### II. 予想物価上昇率の決定

#### A. 予想物価上昇率に影響を与える要因

1. 輸入原材料物価上昇率：（+）要因
2. 生産効率の上昇率：（-）要因

#### B. 予想物価上昇率の変化

1. 実際の上昇率と予想上昇率の不一致 → 予想の修正
  - a. 実際の上昇率が予想より高いとき： 予想を上方修正
  - b. 実際の上昇率が予想より低いとき： 予想を下方修正
2. 「適応期待仮説」adaptive expectations hypothesis

$$a' = a + k[r - a] = kr + (1 - k)a$$

$a$ ：今期の予想上昇率，  $r$ ：今期の実際の上昇率，  $a'$ ：修正後の予想上昇率

### III. 前年の物価水準を基準とした当年の物価水準と GDP

#### A. 物価水準と GDP のあいだの右上がりの関係 —— 総供給（AS）曲線

1. 雇用水準が高いほど物価上昇率は高く、したがって当年の物価水準は高い。
2. 雇用水準が高いほど GDP は大きい。

#### B. 総供給曲線の高さを定める要因

1. 前年の物価水準
2. 予想物価上昇率

### IV. 自然失業率仮説

#### A. 自然失業率または NAIRU

1. 労働市場の均衡での失業率
2. 物価上昇率を一定に保つ失業 non-accelerating inflation rate of unemployment

B. 自然失業率の安定性

1. 失業率が自然失業率より大きいとき
  - a. 総供給曲線の下方シフト
    - (1) 物価上昇減速
    - (2) 予想物価上昇率下落
  - b. 均衡 GDP の増大
2. 失業率が自然失業率より小さいとき
  - a. 総供給曲線の上方シフト
    - (1) 物価上昇加速
    - (2) 予想物価上昇率上昇
  - b. 均衡 GDP の減少

## 参考文献

教科書．第 9 章，第 2 節，242–245 ページ，および第 3 節，246–249 ページ．

吉川洋（2001）『マクロ経済学』第 2 版．東京：岩波書店．第 6 章．とくに 181–186 ページ．